

地域と学校をつなぐかけはしコミュニティ・スクール 来てみて見に来て二見北

二見北小学校 学校運営協議会

11月18日(水)に令和2年度第2回学校運営協議会を開催しました。

1、【6年生学年音楽発表会鑑賞】

初めに6年生の学年音楽発表会を体育館で保護者の方々と共に参観しました。今年度はコロナウイルスの感染防止のため、全校音楽会は中止し、6年生だけは学年での音楽発表会を実施しました。飛沫の飛散を防ぐために合唱や、リコーダー、鍵盤ハーモニカなどの楽器演奏は行わず、打楽器とアコーディオンのみの合奏とし、手拍子や足拍子などのボディーパーカッションを組み合わせ、これまで5年間の音楽会で取り組んできた思い出の音楽を発表しました。鑑賞された委員の方からは、



- 感染症に対する対策がなされていて、苦勞を感じた。
- 児童代表の言葉の中に「こんな状況でもできたことがうれしい」とあり、聴いて涙が出た。
- 形を工夫することで実現できてよかった。
- 演奏に対して、思いや説明をしていた。それを聞いて曲を聴いて、一人一人がどんな方向でやろうとしていたのか、どういうことに力をいれてやろうとしていたかが伝わってきた。などの感想をいただきました。

2、【学校運営・オープン化などについて協議】

★オリ・パラムーブメントをはじめ、サイエンスショー、情報モラル研修、介護予防講習などで、様々な専門家・機関に来ていただいて学ぶことを地域にオープン化した。その他、通年で、きらきらの会さん、こどもカフェ（月1回火曜日）、わくわく未来塾（3年生対象土曜日）、また12月にはまち協主催の「二見北交流会」、1月には50周年行事の「卒業生在校生座談会」を予定し、多くの方に交流していただくことで子ども達が育っている。

★オープン化に加えて、もっとコミュニティ・スクール化を進めるにはどうしたらよいか。
○本校出身のパラ選手前中さんにパラリンピックムーブメント体験講演会お越しいただいたことで、北小の50年の歴史を見ることができた。
○「行けば学べる」「私たちにとても学習の場」と感じられる宣伝をする。つまり小学生から大人、年配までみんなの『生涯学習の場』として打ち出す。明石市がそれに力を入れてきているが、今二見北では、交流の場としてコミセンでまちづくり協議会が主となって○○カフェなどしている。西部文化会館まで行かないとできないというのではなく、わがまの学校でわがまの子どもらと、いっしょに学んでいくのがいい。
○シリーズ化するのも案。はっきりとした看板を打ち出す。期待感を持たせられるような。

★今年度は感染症の関係で大人が入校できない状況でもあるが、親の学校への参画も目指せるようにしたい。オープンスクールや参観日もなく、親が、我が子のクラスメイトや友達是谁なのかも分からない状況がある。人数制限や対象者を決めるなどで感染防止をし、行事の目的を焦点化させて、可能な範囲で実施していけばいいのではないかな。

★二見校区でユニットを組み、小小連携や小中連携を進めたいが、今年度の状況では交流会ができない。
○各小学校それぞれが、やることを揃えて二見中学校へ進級できるようにすることが必要。

★プログラミング教育を、二見小学校からmicro-bitの教材を貸りて実施する。UNITで必要な教材を貸し借りしながら、子どもにより良い学習環境を与えていく。

★GIGAスクール構想が来年度より始まる。オンライン学習が、もしもまた休校になったときなどにできるか。対面でのコミュニケーションを大切にすることを前提にしてすすめたい。

3、【本校を取り巻く状況、児童の教育環境について】

★長期欠席や不登校傾向など現代的な課題が北小にもある。保護者も含めて補助や支援が必要。民生児童委員さんやスクールガードさんの見守りや声かけがありがたい。

★こどもセンター（児相）などの公的な支援機関への通報や相談を些細なことでも行っていくことが大切。日ごろからの連携を進めていく。また、困っている家庭についてはもっと福祉を利用することなどを啓発していく。

★学校に登校しにくい状況の子たちも、こどもカフェやわくわく未来塾に来ている・・・これらを手がかりに、とっかかりにして学校へ来れるようになっていけたら。

★コロナのことで仕事や子どもの養育のことで困っているが相談する人がなく孤立している、子どもと関わる余裕がないなど、しんどい家庭もあると聞く。困っている子や家庭には子ども食堂など、福祉や子ども財団、子育て支援の手がもっと届けば。

★二見中学校では、荒れていた時期から校内巡回が継続されている。問題を抱えている子が学校に来ない場合が増え、触れ合う機会がない。声をかける、叱れるという関係、おじちゃん・おばちゃんとイイイイ言い合える関係って大事だろう。
○地域を巻き込んでフォローアップできる仕組み、システムを作る必要がある。
○地域みんなで、日頃から学校へ気持ちを向ける意識を持ちたいと思う。

以上のように様々な角度からの協議が行われました。回数を重ねるにつれて、学校運営協議会では、より率直な、そして学校の現状に踏み込んだ意見や提言が出されるようになったと感じます。やはり、コミュニティ・スクールの取り組みは、一朝一夕すぐにはできるものではなく、時間をかけて信頼関係を築いていくことが大切です。学校、地域、家庭が同じ目的をもってはじめて協働的な活動ができます。今回の熟議（とまではいきませんが）の結果を今後の学校運営に生かしていきます。



北っ子キツネ

50周年マスコット



50周年ロゴマーク

【次回学校運営協議会について】

第4回学校運営協議会は、

2月6日(土)11:00～を予定しております。

次回は、今回いただいたご意見を基に3学期に取り組みを進め、その振り返りを行います。そしてよりよい二見北小にするアイデアを、付箋にてどんどん出していただき、次年度への改善につないでいきたいと思います。詳細は1月にお知らせいたしますので、よろしくお願いします。次回の開催までにコロナの感染状況が収まっていることを願います。